

平成 29 年 1 月 1 日

## 会員の皆様へ

一般社団法人  
日本心血管インターベンション治療学会  
理事長 中村 正人

### 新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

私にとって昨年最も重要なイベントは CVIT2016 学術集会を成功させることでした。3 日間を通じ約 6000 名の参加者で東京フォーラムが狭く感じられるほどの熱気でした。CVIT の勢い、活力、何よりも一体感を示すことができ、本当に良かったと思っています。会員諸氏、関係者各位にはこの場を借りて、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今年は酉年です。神様へ新年の挨拶に向かった十二種の動物のうち、鳥は猿と犬の喧嘩を仲裁するため、猿と犬に挟まれた 10 番目の干支になったそうです。また、猿・鳥・犬は干支の方位で「申（西南西）・酉（西）・戌（西北西）」となり、鬼門（北東）と対峙する方向というわけで、鬼退治の象徴としても用いられるようです。

そこで、酉年における CVIT の諸問題（鬼）解決の方策を説明させていただきます。それは地域における医療連携であったり、対外的な圧力に対する正しい姿勢の提示、保守であったりします。

まず、研修施設群という新たなシステムの運用が開始されます。基幹施設が包括した指導を行い、関連・連携施設であっても症例カウントが可能になります。施設基準として症例数制限はありませんが、J-PCI レジストリー登録が必須となります。システムの有機的運用のため、各支部に調整委員会が設置されます。

指導いただく先生方には多くの負担をお願いすることになりますが、救急の最前線で日本の医療を担う若手医師を学会として教育、サポートしていくため何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

さらに、専門医制度とも関連して新たな教育カリキュラムが始動し、今後はそれに沿って修練、指導いただくこととなります。詳細は学術集会、ホームページ、メールなどで繰り返しお知らせいたしますので関係する先生方はご留意ください。

次いで、J-PCI レジストリーの内容が少し変わり、手技時間に関する情報を登録いただくようになります。手技料は実際のデータに基づいて作成されるため、全例調査が要求されるようになったためです。これまでと同様に最低限の項目増加にとどめるよう努めますのでご協力をお願い申し上げます。世界的な潮流に応じ、一昨年より J-PCI データの解析から standardized PCI の具現化がどの程度可能かといった検討が始まりました。循環器の診療に関する他学会との議論は、データなしには始まりません。診療を改善するため、他学会、行政に働きかけていくため J-PCI レジストリーの役割は複合的となり、ますます重要となってきています。様々な戦いの土俵に上るために、データの重要性を認識いただければと思います。また、この J-PCI レジストリーから 3 本の英文論文が一流紙に採択されたという、うれしいビッグニュースがありました。登録データは基本項目かつ短期予後に限定されますが、本邦のビッグデータを着眼点と解析の工夫によって重要なメッセージ発信に結び付けた先生方には敬意を表します。公募、審査が必要であります。今年も英知を絞った論文作成案の応募をお願いいたします。

干支の「酉」は「緡(糸酉)」の意味で、果実が成熟の極限に達した状態を表しているとされます。CVIT にとっての成熟とは何かを皆で考えながら、相田みつをの名言“一生勉強、一生青春”を実行していきたいものです。

年の初めに、会員各位の理解と協力を切にお願いするとともに、ご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。